The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	President under the Eyes of the Russian Media: The Stylometry of Russian Presidential Addresses and Their Media Coverage
Author(s)	杉山, 真央
Citation	大阪大学, 2019, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/72218
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

様式３

論　文　内　容　の　要　旨

氏　名　（　杉山真央　）	
論文題名	President under the Eyes of the Russian Media: The Stylometry of Russian Presidential Addresses and Their Media Coverage（メディアの前での大統領　−ロシア年次教書とロシアメディアの計量的文体分析−）

論文内容の要旨

ロシア大統領年次教書演説は1994年，エリツィン政権より始まった。ロシア憲法第84条の規定において国家情勢，国内外政策の方針に関する年次教書を提出することが定められている。ロシアの動向をみるために日本をはじめ，多くの研究所やメディアでもその内容分析が行われている(e.g. 丸紅経済研究所，国際公共政策研究センター)。ロシア大統領の演説分析では，様々なテクストが扱われており，ロシア大統領年次教書演説，就任演説，選挙演説，インタビューなどが挙げられる(e.g. Филинский 2002, Яшин 2010, Котыня 2011, Сауинна 2012, Гаврилова 2012)。Яшин (2010)は，ロシア大統領年次教書演説における政治的語彙に着目し，使用語彙の共起関係を明らかにしたが，研究対象がエリツィンの1996年，プーチンの2000年，メドベージェフの2008年に限定されているため，各大統領の通時的な特徴についてさらなる研究が求められる。プーチン政権からは大統領の公式サイトにて年次教書の文書の閲覧が可能となり，さらにはロシアのインターネットニュースにおいても文書が掲載されるようになり，年次教書への関心が高まっている。

本研究では，ロシア大統領の年次教書のテクスト分析に加え，それを伝えるメディア(高級紙，大衆紙)の報道にも着目し，計量的，かつ質的に両者の視点の差異を考察した。分析対象は以下の通りである。

１）ロシア大統領による政治演説
・エリツィンによる年次教書演説（1994—1999）
・プーチンによる年次教書演説（2000—2007, 2012—2016）
・メドベージェフによる年次教書演説（2008—2011）

２）ロシアで発行された新聞
・高級紙『独立新聞』(Независимая газета)
・大衆紙『コムソモリスカヤ・プラウダ』(Комсомольская правда)

本研究では，大きく2つの段階に分けて進める。まず，i）ロシア大統領の年次教書から聞き手に政策をアピールするためのロシア大統領のスピーチスタイル，また各ロシア大統領の問題意識，リーダー性について考察する。次に，ii）ロシアで発行された新聞のうち，高級紙『独立新聞』(Независимая газета)と大衆紙『コムソモリスカヤ・プラウダ』(Комсомольская правда)を使用し，ロシア大統領年次教書演説に対する報道表現，および年次教書と新聞記事における視点の差異について考察する。本研究では，大統領の演説がどのようにメディアに反映されているのか，メディアはどのように大統領の言葉を切り貼りしてロシアの大統領像を描いているのか。大統領とメディアの語彙使用から当時のロシアがいかに捉えられていたのかを考察し，大統領とメディアの関係について明らかにする。

ロシア大統領年次教書演説の計量的な政治演説，およびテクストと語彙の関係性，またロシア大統領年次教書演説とロシアメディアにおける語彙使用について考察するため，テクストマイニングを用いる。テクストマイニングとは，大規模データを使用し，様々な解析技術を用いて言語的パタンを抽出し，そこから有益な情報を得ることを目的とする（Talib et al.,2016)。テクスト分析では，CasualConcを用いて，各大統領のテクストがどのようなクラスターに分類され，その結果にどのような語彙が寄与しているのか吟味し，対象語彙の振る舞いを考察する。また，リーダー性の考察では，「問題」を表す語彙，および「義務」を表す語彙に着目し，それらの語彙と共起関係にある語彙を考察するために前後5語のスパンで設定し，MIスコアを共起関係の指標とした。各大統領の年次教書の特徴語の分析では，対応分析を用いてテクストと語彙の関係性について考察した。

ロシアの新聞，高級紙『独立新聞』(Независимая газета)と大衆紙『コムソモリスカヤ・プラウダ』(Комсомольская правда)では，報道記事の数，風刺画，写真，見出し語，そして報道記事を比較した。さらに両新聞の特徴語をランダムフォレスト，対応分析を用いて比較した。さらに記事内容の分析では，大統領の掲げる理念をメディアがどのように理解し，さらに新聞の読者である国民に伝達していたのかを考察した。具体的には，ロシアにおける民主主義と近代化の認識について大統領と各新聞で比較した。

分析結果としては次のことが挙げられる。エリツィン，プーチン，メドベージェフのロシア大統領年次教書演説の対応分析の結果，(a)1990年代のエリツィン，(b)2000年代のプーチンとメドベージェフの2つのクラスターに分かれた。分類に寄与した語彙をみると，エリツィン，そしてプーチンとメドベージェフとでは政府，国民へのアピールが異なることが明らかとなった。また，テクストで観察された高頻度語からも当時の時代背景が年次教書に反映されており，大統領の視点も時代によって変化していることが確認された。さらにリーダー性の考察からは，以下の結果が得られた。

・エリツィン：事態の発生・悪化，問題の困難性の提示
・プーチン：問題把握・解決の意志
・メドベージェフ：問題の改善性

さらに，実際の使用をみると，プーチンとメドベージェフは掲げた目標を提示するために，ネガティブな語彙を使用し，その後，「義務」に関する語彙を用いて自らの主張を強調している傾向が観察された。

高級紙『独立新聞』(Независимая газета)と大衆紙『コムソモリスカヤ・プラウダ』(Комсомольская правда)での年次教書に関する報道では，風刺画をもって政治を描かれていたのは，エリツィン，そしてプーチン政権発足当初のみであった。プーチン，メドベージェフ時代になると，新聞はカラー印刷となり，そのことも影響してか写真による視覚情報が増えた。風刺画とはことなり，直接的な表現はされていないが，実際の写真を用いて異なるアングル，風景，それらに加えるコメントにより記者は，読者へ年次教書や大統領へのイメージを伝えるようになった。

ランダムフォレストによる各新聞の分類では，プーチン政権での報道記事で，高級紙『独立新聞』と大衆紙『コムソモリスカヤ・プラウダ』が分類されることがわかった。しかし，メドベージェフ政権になると，エリツィン政権について述べていた記事よりもその分類の正解率は下がった。この大きな理由として，メドベージェフ政権では，近代化，プーチンとのタンデム体制のトピックに集中していたこと，また両新聞が同様の見解からメドベージェフ政権を報道していたことが挙げられる。

大統領の意味する「民主主義」はメドベージェフ政権においては「近代化」と結び付けられた。各大統領と新聞の関係は次の結果が得られた。エリツィン政権では，民主主義の認識を広めるが，高級紙『独立新聞』では「デモクラトゥーラ(демократура)」という民主主義と独裁政治という相対する語彙による造語を用いて批判的にエリツィン政権の民主化を描いていた。大衆紙『コムソモリスカヤ・プラウダ』ではこのような造語は観察されなかったが，同様に批判的な報道傾向にあった。プーチン政権では，「ロシアの民主主義」，「我々の民主主義」と西欧諸国との民主主義とは異なる，新たな民主主義の価値観を与えており，両新聞もプーチン政権を支持していた。しかし，民主主義の条件となる「自由」と「人権」の理解はプーチンの描くものとは異なり，プーチンは与える，あるいは供給すべきものであるとしているが，記者たちは，自由は奪われるものであると理解していた。メドベージェフ政権になると，民主主義を発展させ，ロシアの近代化を進めるという姿勢から，メドベージェフの認識として，ロシアの民主主義はすでに完成にしている，あるいはしつつあることがわかる。しかし，メディアは，はじめこそポジティブな報道をするも，メドベージェフ政権への批判的な報道が確認された。

本研究で扱った記事では，高級紙『独立新聞』(Независимая газета)，および大衆紙『コムソモリスカヤ・プラウダ』(Комсомольская правда)の傾向として，エリツィン政権，メドベージェフ政権へは批判的見解から記事が書かれており，プーチン政権では大統領の言葉を支持する傾向が観察された。ロシア国民は，テレビ，ラジオなどで大統領の年次教書演説を視聴できるが，大統領の言葉に対する理解は，その後のメディアによる報道の影響が否めない。大統領の支持率は実際の政策や，その結果によるものも大きいが，自らの言葉で何をどのように語るかも支持を得るためには重要である。本研究では，計量的にロシア大統領の年次教書，新聞記事を扱い，ロシア大統領とメディアの関係について明らかにした。

様式 7

論文審査の結果の要旨及び担当者

氏　名　（杉山　真央）		
論文審査担当者	（職）	氏　名
	主 査　教 授	ディボフスキー・アレクサンドル
	副 査　教 授	岩根　久
	副 査　准教授	田畑　智司

論文審査の結果の要旨

杉山真央氏の博士論文 *President under the Eyes of the Russian Media: The Stylometry of Russian Presidential Addresses and Their Media Coverage* （メディアの前での大統領―ロシア年次教書とロシアメディアの計量的文体分析―）では、ロシア大統領の年次教書のテクスト及びそれに反応するメディア(高級紙、大衆紙)の報道が分析対象となっている。本論文の著者は、ロシアの大統領エリツィン(1994－1999)、プーチン(2000－2007、2012－2016)、メドベージェフ（2008－2011）の年次教書のテクスト及びそれを取り上げるロシアの高級紙『独立新聞』(Независимая газета)と大衆紙『コムソモリスカヤ・プラウダ』(Комсомольская правда) 記事のデータベースを作り、テキストマイニングの方法論に従い、コーパス分析ソフトCasualConc 2.2.1を使用し、教書演説の頻出語を焦点に単語クラスター分析、共起分析、対応分析を実施した。各大統領の年次教書の特徴語の分析では、対応分析を用いてテクストと語彙の関係性について考察した。エリツィン、プーチン、メドベージェフの年次教書テクストの対応分析の結果、対象語彙が2つのクラスターに分かれた。一方では、エリツィン、他方、プーチンとメドベージェフでは、政府や国民へのアピールが異なることが究明された。3名の大統領の教書のテクストで観察された高頻出語彙からも当時の政治課題や時代背景及び大統領の視点が明らかになった。

リーダー性の考察では、「問題」を表す語彙、および「義務」を表す語彙に着目し、それらの語彙と共起関係にある語彙を考察するために上記のソフトを前後5語のスパンで設定し､MIスコアを共起関係の指標とした。その結果、エリツィンと違って、プーチンとメドベージェフの掲げた目標提示に、ネガティブな語彙使用後、「義務」に関する語彙の使用により、自らの主張強調の傾向が観察された。

上記の2紙では、大統領年次教書に関する報道記事の数、風刺画、写真、見出し語及び報道記事が比較分析の対象となった。各大統領に対する両紙の見出し使用語彙に関して、ランダムフォレスト、対応分析により、その特徴が明らかになった。記事内容の分析では、大統領の掲げる理念をメディアがどのように解釈して新聞の読者に伝達していたかを考察した。『独立新聞』(Независимая газета)と『コムソモリスカヤ・プラウダ』(Комсомольская правда)での年次教書に関する報道では、政治風刺画が使用されたのは、エリツィン、そしてプーチン政権発足当初のみであり、その後のプーチン、メドベージェフ時代になると、新聞はカラー印刷となり、写真による視覚情報が増え、報道関係者は、実際の写真を用いて読者へ年次教書や大統領へのイメージを伝えるようになったことが究明された。

このように本研究では、筆者が計量的にロシア大統領の年次教書のテクストと新聞記事を分析し、3名のロシア大統領の教書演説における語彙使用の特殊性、それぞれの大統領の教書演説の内容とメディアとの関係を明らかにした。

本論文には、注釈の仕方や参考文献の提示における若干の不備、英語やロシア語のミスプリが見られるものの、博士（言語文化学）の学位論文として十分価値のあるものと認める。

なお、チェックツール“iThenticate”を使用し、剽窃、引用漏れ、二重投稿等のチェックを終えていることを申し添えます。